

# 令和3年度農林漁業体験型教育旅行受入等懇談会議事概要

日 時：令和3年(2021年)12月20日(月) 14:00～16:30

会 場：北海道第二水産ビル4階 4G会議室

参加者：「懇談会出席者名簿」のとおり

## <議事概要>

### 1 概要説明

#### (農村設計課)

年末の御多忙の中、参加していただき感謝。

道では、都市と農村の交流を通して、農村地域の理解促進及び関係人口の増加を目的に教育旅行の受入を推進しておりますが、昨年から続く新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大の影響により道内の農林漁家による教育旅行受入は大幅に減少しているところ。

このことから、コロナ禍での教育旅行受入の現状やその対策、またポストコロナ・ウィズコロナに向けた教育旅行受入に関して、道内のコーディネート団体から、実際の受入農家の対応や旅行会社とのやりとり、今後教育旅行受入再開に向けたご意見など情報交換する場として、本日、懇談会を開催する。

この後、情報提供として、北海道観光振興機構長野部長より、「コロナ禍における全国の修学旅行の動向について」情報提供し、当課の松本より、事前に御回答いただいたアンケート結果について、説明する。

続いて、各団体から、コロナ禍での受入れ状況や今後の動向について近況報告を3分を目安に報告いただきたい。

最後に、事前にいただいたアンケートを元に、意見交換をしていただき、今後の取組に活かしていただきたい。

### 2 情報提供

#### (北海道観光振興機構)

資料1「コロナ禍における全国の修学旅行の動向について」に沿って、説明。

#### (農村設計課)

資料2「教育旅行の受入に関するアンケート調査結果」に沿って、説明。

### 3 近況報告

#### (空知DEい〜ね)

令和3年度はビジットのみで、道内は2校、道外は1校で405名を受入。キャンセルはステイが12校、ビジットが3校。今回は受入農家が集まりにくい状況で、1戸で5～10名受け入れるケースがあり、昼食時のコロナ対策に問題があり、屋外や納屋、ビニルハウスで対応した。今まで各市町村の役場から農家が家に連れていく形態だったが、今年度はバスに変更し、スタッフが分かれて先導した。

今回の問題点は空知は（教育旅行受入に対応した）ホテルがなく、上川の白金パークホテルや富良野のホテルに宿泊するケースが多く、移動時間が長いのがネック。今回の対応で最も範囲が大きかったのは、深川から新篠津村まで。

来年度はステイ10校2000名、ビジット5校563名でステイでやっていく方向で進んでいるが、対応は非常に厳しい。1月上旬までに各旅行業者や学校にステイからビジットへの移行を検討してほしい旨報告していく予定。

#### （長沼町グリーンツーリズム運営協議会）

今年度は全てキャンセル。来年度はステイは中学校1校、高校7校で965名予約を受けている。2年間受けていなかったのも、受入農家のモチベーションが下がるので、できるだけ受入れる予定。

感染対策のマニュアルは長沼版を作成し、対策に取り組んできた。

空知 DE い〜ね、日高王国推進協議会、千歳観光連盟と連携し、分散して受入予定。

これまで4万人を受入れてきたが、高齢化や離農、農家の規模拡大で受入の負担が大きくなっているが、現在新規が3戸おり、その方たちを中心に頑張っていきたい。現在受入農家118戸のうち、ステイとビジットの割合は半々だが、今後のオミクロン株の状況により、どの程度対応できるかは未知数。農家のところへ足を運んで取組実態について説明する努力が必要。

#### （千歳観光連盟）

R3年度はステイ2校、ビジット1校キャンセル。実施したビジット2校のうち1校は近場と言うことで千歳市実施。R4年度は長沼町であふれたステイ4校を受入予定。ビジットは3校5コースで予約受けている。R5年度はステイ3校とビジット1校の予約あり。ステイ分も長沼町であふれた分を受入予定。これまで千歳市と恵庭町で受入れてきたが、厳しくなったのでむかわ町と厚真町にも声をかけている。来年度以降はスポーツピアと千歳観光連盟で連携して受入できればと考えている。

#### （マルベリー）

今年度は7月にビジット1校、10～11月にステイ6校、全て関西の学校を受入れ。民泊は道内中学校（100名以下）延べ5校受入れ（4コース）。子供への感染が増加してからは、農家が受入れに及び腰となり、100名受入が限度であった。

エージェントから部屋割りの指定あり（4名→3名、6名→3名2部屋）。その一方ホテルは従来どおりであったことに違和感。対面食事もNGとなり、入浴もシャワーのみの要望があった。若い新規就農者やマルシェを開催するなど意欲の高い農家等で100名受入したが、シャワーがない家庭や薪風呂の家庭もあったので対応に苦慮。

コロナ対策として、検温件持参を必須とし、バス降車時や、ファームステイの場合は、起床時と就寝前に検温。私立校は持参した検温計で自分で計測したデータをIPADで教師に報告等、管理されているが、公立校からの質問では、持参のために検温計を買うように各家庭にいけないとの意見があった。仮に発熱した場合は本部に帰し、微熱の生徒は農家（ビジットはバス）で待機する対応をしていた。発熱した場合は受入範囲外に連れ出さないとしないが、感染リスクからタクシーかレンタカーを必ず用意するよう対応した。ビジットの場合、本部がないので直接病院へ移送するといった問題があった。

今年度キャンセルのあった四十数校のうち、10校はステイからビジットを提案したと

ころ、コンセプトが違うとの理由によりキャンセルされ、自社の都合によるキャンセルのため、キャンセル料の請求ができなかった。

来年度はビジット 18 校で、ステイが 17 校予約があり、ステイについては約半分以上が 260 ～ 360 名で、今現在キャンセル待ちのところに、今月までにビジットへの変更であればキャンセル料は無しとこれから周知予定。

ニセコ地域周辺のホテルで言えば、コロナ禍で食事を大人数でできないことや部屋数がないので、大きな学校はあぶれて、民泊なら昼食も含め対応可能ではと思われるのを感じた。

民泊に関しても、感染リスクにより、来年度もそこまで受入農家戸数は戻らないのではないかと感じており、オール北海道で受けるのもあり。

#### **(日高王国推進協議会)**

今年度は 1 校 24 名ステイを受入れ。ビジットは元々行っていいない。キャンセルは 120 名 1 校。取消理由は、当協議会の受入は 120 名が上限で、他の団体と分散して受入予定であったが、他の団体を取りやめたため、当協議会でも取り止めとなった。今年は高齢や家族経営の農家では感染の恐怖から受入したくないとの声があった。コロナ対策として、旅行会社にはガイドラインを渡すなど対応。来年度は従来どおり 120 名を上限に 2 校の予約を受けている。

#### **(アグリテック)**

今年度はステイ 5 校、ビジット 3 校がキャンセル。その他にコロナによる延期で旅行先を旭川に変更した学校や地元での実施への変更による仮予約 (10 校程度) もあったが、結局キャンセルとなった。今年の実績はゼロであったが、スポーツピアで 6 月に田植え体験予定だったが 9 月層雲峡宿泊に変更となり、木工体験を提供した (再延期で 11 月に変更)。

その他、SDG s プログラムとして東川コースで自然体験や留学生との交流など約 100 名受入れた。今後は新学習指導要領で SDG s が求められ、これから盛んになってくることから、SDG s を着眼点にプログラムを作るべきと考えている。

来年はステイ 6 校 450 名、ビジット 3 校 400 名で仮予約が入っており、さらにステイが 1 校追加予定。そのうち 1 校は農業体験に SDG s プログラムを入れて欲しいとの要望有り。これまでファームステイやビジットを通し、「食の大切さ」と「命の大切さ」を伝えてきたと思っている。それを SDG s が言われる前からやってきており、表現を変えるだけで学校の求めるプログラムに合致するのでは。来年のステイは 100 ～ 120 名程度の小規模の学校で、その他選択制 (一部クラスのみ農業体験) の学校もある

3 年間宗谷方面で受け入れてきたが、コロナを受けて、距離が遠いなど希望が少ない。宗谷総合振興局や受入農家との打合せでは、送迎の問題や受入農家の負担が大きいことがあるとのことで、現在道北エリアの受入体制を検討中。

#### **(津別町グリーン・ツーリズム推進協議会)**

今年度は受入無し。来年度は年明け頃の協議会で正式に決定する。

コロナ禍での対応は、受入について受入農家の家族間で折り合いがつかず、またモチベーションも下がっている。来年度について聞いても、反応が悪い。

一方、若手がゼロカーボンや未来戦略に対応すべく、新しい農業や農産物を検討中だが、

コロナ禍でハードル高い。その他、美幌と連携したプログラムを提供する予定。

**(美幌町役場みらい農業センター)**

2019年に受入農家6戸で近江さん(食の絆を育む会)の協力を受け、高校生20名の受入からスタートした。誘客と受入農家の推進を同時進行し、町内農家100戸以上や青年部役員会等の団体に話をし他結果、22戸の農家が受入に協力いただけることになった。しかし、その中でコロナ禍により、R2~3年度は全てキャンセルとなり、雰囲気は盛り下がっている。それでも今やれることとしては仲間作りを進めており、現在津別町と連携をとっている。今後は、根室振興局農務課との連携も進めていきたいところ。また、道とオホーツク総合振興局のバックアップ(中山間ふるさと水と土保全対策事業)を受け、管内2市5町でオホーツク農村ツーリズム連携会議を設立。その中で農家民泊と管内体験コンテンツを組み合わせたプログラム作りを検討中。

R3年度はステイ2校、ビジット1校がキャンセルでR4年度の予定は無し。

**(食の絆を育む会)**

今年度はステイ6校、ビジット1校がキャンセル。来年度はステイ5校、ビジット1校の予定があるが、1月中旬の代表者会議でキャンセルやビジットへの変更含め決定予定。旅行業者にも了解済み。

コロナ禍での受入は個人的に受入している役員がおり、受入を実施する場合、協力して、ガイドラインを作成する予定。受入農家には、訪問などで受入のお願いしていたが、コロナ禍では、無理にお願いし辛くなった。自分からやりたいという人が出ないと難しい。

**(南知床標津町観光協会)**

今年度は民泊や体験は実施していない。コロナ対策のガイドラインも作成済み。

来年度はステイ2校、ビジット8校予定。釣り体験や北方領土学習などのコンテンツを実施予定。

#### 4 意見交換

(1) 受入農家の減少をほとんどの地域から報告があり、皆さんも苦勞しているところと推察。そこを裾野拡大ということで新規の取組農家等の開拓、またコロナ禍で下がりちな現取組者のモチベーションの確保など、皆さんの取組状況を教えてほしい。

**(南知床標津町観光協会)**

若手農家は本業が多く、理解してもらいたいという人が多い。体験の需要はあるが、農協や漁協の理解が必要。議論の場が必要。

**(食の絆を育む会)**

今はコロナ禍で農家に手紙は出すが、接する機会がなく、活動がほとんどできていない状況。

**(美幌町役場みらい農業センター)**

農家戸数が減少している中、受入農家が減少するのは当たり前で、その中で受入についてどう理解してもらうかが重要。受入をやる必要があるかを地域で見直す必要があり、やらない農家はやらなくていいと考えている。必要かどうかを地域で見極め、必要だという地域には農協や役場がサポートしていく必要がある。美幌町では、22戸が必要だと思ってくれている。

#### (津別町グリーン・ツーリズム協議会)

ここ5年で受入農家が半減しており、一軒一軒訪問して聞いているが、拡大につながらない。今年になって、農家主体となる「農業の未来を考える会」や農林業、寺社関係者の「異業種のまちづくりを考える会」が立ち上がっており、今の農業にプラスして何かしたいと考えている人はたくさんいる。教育旅行の受入のメリットや仕事への影響を含めて説明するなど、農家と直接話すことが大事だと思っている。

#### (アグリテック)

15～16年前から始めて、今世代交代を迎えつつある。経営移譲したタイミングで取り込めないか検討中。

宗谷、留萌と連携した受入れの広域化も考えている。地域地域でやりたいという農家はいるので、そういった方々の思いをくみ、広範囲となり旅行行程の課題の解消（バスの手配や本部の位置）も必要だが、広域的な受入を検討している。

新規開拓も進めており、特に留萌エリアでこういった取組をやらなければとの思いを持っている農家が多くいる。どう実現していくかセミナー等で、つなげていく作業が必要。

コロナ禍で、受入農家だけでなく、事業者もメンタルが低下している。受入農家にヒアリングしたくてもいけない状態が続いている。今後、社会情勢を見極め、リセットするか受入の再確認し、新たなステージへの見極めし、5～10年続けていける環境作りを検討中。

#### (日高王国推進協議会)

コロナ前は受入農家が40戸あり、実施した際は反省会として夜、飲み会をしていた。今年の受入農家は7戸のみで、ランチ会を企画したが、数名しか集まらなかった。

新規受入農家の確保のため、写真展で民泊のPRを毎年実施しているが、1戸1戸訪問して説明して、勧誘する必要あり。

#### (マルベリー)

コロナ禍で受入に参画しているが協力してもらえていない現状だが、新規開拓については、コロナ禍で実施すべきか苦慮。参画者で形成しているLINEグループで参加していない人にも取組の写真等を送付し、事業継続のアピールはしているが、農家間での受入への誘いといった発信が良い。

受入農家では、夫婦間の温度差があり、母親は子育てもあるため、負担が大きく、その負担解消や夫婦間の温度差の解消が課題。課題解消策として、昼食に弁当を用意（自社負担）などを行っている。

民泊のブームは過ぎていると考えている。今後継続していくには、課題について協議したり、仕組みを変えていかないとならない。また学校が求めるコロナ対策でさらに農家への負担が大きくなっている。今回の受入で学校側と受入側でコロナ対策への取り組み姿勢に温度差を感じる（逆の場合もあり）。この状況下で新規開拓にリンクさせるのは難しい。

#### (千歳観光連盟)

千歳市のグリーンツーリズム協議会と情報交換はしているが、ここ最近では新規の声かけはしていない。コロナ禍で新規開拓はいかなものかという点ともともと受入は40名1クラスが限度で、1～2戸新規を増やしても変わらない。新規開拓よりも隣接する厚真町等と分散して受入れる方がいい。ステイは農家に負担が大きいため、来年はビジット+ホテ

ル宿泊に移行を考えている。我々の取組に共感いただいているANAクラウンプラザホテルに修学旅行用の価格設定してもらい、日帰り体験+ホテル宿泊を検討している。

#### **(長沼町グリーンツーリズム運営協議会)**

若い後継者が3戸希望しているが、まだ許可申請まで至っておらず、事務説明はまだしていない。受入は奥さんの理解が必要。受入農家に訪問したときも必ず奥さんに話すことと伝えている。また、農家の現状は現場の農家が情報発信すべきで、生徒が来たときには「今後の食育」や「一期一会」といった人との交流の大切さを教えるようにしている。コロナ禍で農家のモチベーションが下がってきているが、足を運ぶしかない。受入始めて17年経つが、受入農家も高齢になっており、無理してまでやらせられない現状で願いは難しい。

#### **(そらちDEい〜ね)**

モチベーションを下げないように、日帰り体験を重点にして受入れている。農家同士で話し合っ、若手や新規就農者が日帰り体験なら今回受けてくれた。

今後は、若い農家が入ってこないと厳しい。ファームステイを受けるだけのメリットがないと、若い人も動かない。修学旅行を通して、北海道の観光を誘致していかないとと思うのであれば、道が動いたり、助成といった何らかの支援が必要となってくる。

(2) マルベリーから民泊のブームが過ぎたとの指摘があり、アンケートの中でもファームステイの需要はまだ大きいのか、誘致先に選んでもらうには何が必要なのかとの声があった。そこで、北海道観光振興機構が企画している教育旅行に関する説明会・相談会に参加された団体から感触を聞きたい。

#### **(千歳観光連盟)**

大阪会場(12/7)では北海道旅行の需要は元々多く、ファームステイの需要は多い。

名古屋会場(12/8)は当団体では、今まで1校もない。他の地区より修学旅行料金が低いので、北海道を目的地にしづらい。

東京会場(12/9)は神奈川県の上限額が大きく、道東まで足を運ぶことが可能。新幹線を活用し、道南から千歳までのルートもある。ウポポイも人気が高い。

去年今年と2~3年同じ方面にいく傾向があり、コロナ禍でリセットされているので、今が誘致のチャンス。

#### **(北海道観光振興機構)**

全国的にファームステイや民泊の受入はストップしている。民泊の多い沖縄も同様な状況。旅行会社から民泊再開の問い合わせはよく来る。受入戸数は減少しているが、新規受入が増えれば、より北海道の修学旅行の魅力が高まる。ファームステイは農家の負担が大きいが、地域の活性化や農業の理解度を深めるきっかけとなり、また定住にもつながる手段の一つとなる。

誘致先を選んでもらうのに、確実なものはないが、魅力の発信の仕方であったり、先ほどから話に出ているSDGsもZ世代には浸透してきており、ファームステイにも結びつき、需要が増え、供給が不足すると感じている。

(3) 教育旅行がSDGsに沿っているかということが話題になっているが、自分たちが

やっていることがSDGsだといえる方があれば情報共有したい。

#### **(アグリテック)**

農業自体が自然と人との関わりの中で培っている産業なので、一次産業自体がSDGsではないか。持続可能な農業の派生で有機栽培が広がっている。今更SDGsといわなくても、環境保全の役割も農業は有している。

我々提案する側がどういったコンセプトで学校側やエージェントに提案し、組み立てることでSDGsに化けていくのではないかと思う。

#### **(南知床標津町観光協会)**

キャパの問題があり、民泊は40名が限界。民泊に対する教育が必要。学校に寄り添う伴走型の取組が必要。

#### **(マルベリー)**

今回、保護者の立場で参加することがあった。保護者まで民泊の意味が伝わっていない印象だった。民泊も学校側の意図が体験よりもコミュニケーションに移行してきており、触れ合いが前提となっている。学校側の意図について、保護者への説明会がなく、子供を預ける親としては不安がある。

SDGsの17の目標達成にフォーカスが当てられ、なぜ課題目標が必要なのかの説明が削られている。事前学習できちんとしたアプローチし、それを先生と共有すること、保護者に説明することが必要。

#### **(長沼町グリーンツーリズム運営協議会)**

農業体験がメインというとならえ方ではなく、一方で天候が崩れた時にどんなことができるか、農家の生活体験でなくてもいいのではないか、その中から農家が個々に子供たちに何を伝えていくかを持つことが大事。17年取り組んできた中で、学校に事前学習として足を運び、長沼町について話をし、長沼町や自分の住んでいる町の歴史について勉強するといった提案をしてきた経緯がある。それによって、自分の置かれた立場や自分の生活環境について関心をもって頂きたいという経緯があった。

#### **(北海道観光振興機構)**

新学習指導要領の改正により、「生きる力を学ばせる」と「コミュニケーション能力を高める」ことが求められている。これが、ファームステイ等の意義のあるところ。

SDGsの目標について、農業は2番（飢餓をゼロ）、8番（働きがいと経済成長）、12番（つくる責任、つかう責任）、15番（緑の豊かさを守る）が該当しており、ファームステイは4番（質の高い教育をみんなに）が合致している。